

これから伸びる 首都圏の カインシャ

日刊工業新聞社東京支社：編

新型コロナにも負けない有カ企業

2021秋

日刊工業新聞社

▲ 酒井重工業株式会社

世界の道路インフラ整備に貢献するグローバルニッチ企業 ——創業100年を超す道路建設機械のパイオニア

ここに
注目!

国内シェア 70%、海外展開も積極化し圧倒的なポジション築く
JAXA も認める高い締固め技術を保有し新分野展開も

「私たちの村の道もこれで良くなる。仕事は大変だったけど感謝の気持ちでいっぱいだ。皆さんのことは生涯忘れない」。ミャンマーに対する道路建設機械のODA（政府開発援助）輸出で、3カ月に及んだ現地施工・指導の最終日。酒井重工業株式会社の渡邊亮介副社長は、連日安い日当で手伝いに駆り出され手足を泥だらけにし真っ黒に日焼けした村の少女らの言葉を今も思い出す。「われわれ日本人は彼女たちを手伝いに駆り出し疎まれていると感じていたのに、思わず感謝の言葉をかけられ心が「ジーン」と来て涙が出てきた」。土道のぬかるむ土に苦労していた村人にとって、舗装道路は待ち望まれた公共財。道路建設を通じて人々の暮らしに貢献できたという、純粋に誇れる自分がそこにいた。今から8年前のできごとだ。

効率よく地面を締固める 独自のノウハウを保有

1929（昭和4）年、国内初の

ロードローラを開発して以来、道路建設機械のパイオニアとして道路の建設・維持・補修事業に携わってきた酒井重工業。道路建設機械は建機市場全体の約3%に過ぎないニッチ市場とはいえ、幹線道路のアスファルト舗装工事で活躍する大型舗装用ローラをはじめ、市街地の舗装用ローラ、道路補修用ロードカッタ、大型土工用振動ローラなど多彩な製品を取り揃え、道路建機では国内シェア70%の圧倒的なポジションを有する。

ローラの目的は「地面を固めること」、「土を固めること」を同社では締固め（しめかため）というが、この締固めが不足すると何年も経たずに舗装面に轍やひび割れが発生してしまう。現場の土の種類や性質から最適な含水比を割り出して、いかに土中から空気を追い出せるかがポイントで、重力だけでなく振動、衝撃の力を使い分けて、「効率よく高い締固め密度を実現できるところに当社の強み

がある」（渡邊副社長）という。締固め密度を1%向上するだけで舗装寿命が1年伸びると言われるほど、その技術は奥深い。締固め専用の試験設備も揃える同社は、世界的にもこの分野で揺るぎない技術を持つグローバルなニッチトップ企業でもある。

この締固め技術を道路以外に活用する動きもある。例えば、頻発する集中豪雨対策として注目される河川の堤防。建設時に土を締固めることができれば、従来以上に強固で決壊しにくい堤防を築ける。最近では宇宙航空研究開発機構（JAXA）とともに、月や火星の拠点建設を見据えた月面締固め技術に関する共同研究に着手しており、「当面は、海外を含めて道路に特化した締固め技術でやっていく」（渡邊副社長）としながらも、締固めのプロフェッショナルとして技術を横展開し活躍の場を広げていく方針だ。



ミャンマーの工事風景：ロードスタビライザ



ミャンマーで働く女性たち



タイの工事風景：土工用振動ローラ



インナーブランディング：
SAKAIIPPONグランプリ



インナーブランディング：
社内運動会

デジタル技術を活用した 新製品が目白押し

ITデジタル技術を用いたスマート製品の開発も急を告げている。テスト段階にある自動運転技術に始まり、ローラによる転圧作業を行いながら地盤の剛性をリアルタイムに評価できる転圧管理システムや、ミリ波レーダーにより湯気などを対象物と誤認しない緊急ブレーキ装置などを実用化、自動運転もテスト段階に入っている。さらにIoTによる稼働監視や

リモート診断サービスも計画中で、自動車と同様に内燃機関から電動化への研究も続けている。

2018年に、創業100年を迎えた酒井重工業。いま同社が向かい始めた将来ベクトルは、単なる道路建設機械メーカーの枠に留まらず、SDGsにもつながる新たな領域を指し示す。ブランディングを担当する吉川孝郎執行役員管理部長は、「機械を作って売るのが仕事ではない。道路建設を通じて、国内外の社会インフラづくりに貢献していくことが当社の役割だ」と

と断言する。

「みらいのさかい」をテーマに、社内公募したあいうえお作文。予想に反して、合計110件もの作品が集まった。「多くの作品には、会社や仕事に対するプライドがにじみ出ている」（吉川部長）と嬉しそう。だからすべての作品を漏れなく一枚のポスターに収めて掲出した。「SAKAIの機械」は地味で武骨だが、機械を通じて世界に貢献する「SAKAIの道づくり」は、泥臭くも粋であることを、SAKAIの社員は知っている。

わが社を語る

代表取締役社長
酒井 一郎氏



飽くなき挑戦を続ける

当社は、道路建設機械のパイオニアとして、道路の建設・維持・補修事業の高度化に向けて、新製品・新技術開発を続けてきました。ユーザーの方々に信頼のおける製品とサービスを提供し、道路事業の発展に有益な技術を創造し、さらに道路建設機械で培った専門技術を周辺分野にも役立てて行くことが、我々の存在意義であり、責務であると考えます。お陰様で、当社は創

業100年の歴史を刻むことができましたが、今後も長年の経験から生まれた有形無形のノウハウと新技術への飽くなき挑戦を続けるとともに、環境への配慮やデジタル化を加速させながら、世界の国土開発に貢献できる企業を目指します。

会社 DATA

所在地：東京都港区芝大門1-4-8 浜松町清和ビル5F
 創業：1918（大正7）年5月
 設立：1949（昭和24）年5月
 代表者：酒井 一郎
 資本金：32億2,100万円（東証1部上場）
 売上高：216億2千4百万円（2021年3月期）
 従業員数：グループ：602名（2021年3月31日現在）
 事業内容：道路建設機械（締固め機械・道路維持補修機械等）の製造販売
 URL：<https://www.sakainet.co.jp>

